芝谷地湿原の植物⑱

ミミカキグサ　（タヌキモ科）

芝谷地には食虫植物が六種ほどあります。その中の一つミミカキグサは、湿っていて陽の当たるところに生えています。花茎は夏では十センチほど、秋では二～三センチほどと短く、花が咲き終わった後が耳かきのような形になることからこの名です。

地中の茎についているたくさんの捕虫のうをレンズでよく観察すると、ふくろの口が奥にあって、扉の前に円筒状の誘導路があります。そこに、毛細管現象でたまった水があって、迷い込んだ小さな虫が吸い込まれるという、実に巧妙な仕組みに感心します。

文・菅原キサ　写真・山田政一

編集後記

□人のうわさというのは怖いものです。何か一つのことが、人から人へと伝わっていくうちに二つも三つも尾ひれがついて、いつの間にか、実際と違ったものとなっています。私たちの周りにも数多くのうわさが飛び交っています。くれぐれも注意して話したいものです。（ま）

□八月中旬から集中的に続いた取材も一段落。この期間が過ぎると途端に秋を感じます。周辺の田んぼは黄金色に色付きはじめ、そろそろ稲刈りの準備も始まっているようです。今年の稲の作柄は平年並みに回復してきているようですが、新食糧法下での初の出荷となる農家にとっては収穫を終え、売り渡しが完了するまで気を抜けないことでしょう。（咲）

□野辺では秋が、日増しにその色を濃くしています。熱く湿った夏の空気とは対照的に、サラッと軽く、それでいてどこか感傷的な秋の風。そういえば、秋の心と書くと「愁」になりますね。普段は気づきにくい微かな心の振幅にゆったりと思いを馳せてみるのも、静かなこの季節には似つかわしいことなのかもしれません。（ゆ）

広報おおだて　平成８年９月16日号(No661)
発行/大館市　〒017秋田県大館市字中城20番地
☎０１８６－49－３１１１
編集/総務部総務課広報広聴係(内線258)
広報おおだては再生紙を使用しています。